

令和7年9月3日

「ト一横」等における青少年・若者の
被害等の防止に係る情報連絡会
(第5回)

東京都 都民安全総合対策本部 総合推進部 都民安全課



目次

- 事業における3つの視点と、施策の3本柱
- 相談窓口「きみまも@歌舞伎町」の取組
(令和6年度)
- 相談窓口「きみまも@歌舞伎町」の取組
(令和7年度)
- 相談窓口以外の取組
- 今後の取組の方向性について

事業における3つの視点と、施策の3本柱

東京都は、いわゆる「ト一横」問題について、第33期東京都青少年問題協議会答申に基づき、「被害等のリスクを抱える若者」、「加害者となり得る悪意のある大人」、「被害場所等となり得る空間」の3つの視点から、下記の施策を実施している

青少年・若者向け相談窓口 きみまも@歌舞伎町の運営



相談などを通じて
信頼を築き、適切な支援
につなげる場所

犯罪被害等の未然防止に 向けた各種普及啓発等



SNSやデジタルサイ
ネージの活用、地域と
連携した注意喚起等

行政・警察・民間支援機関 等との連携



関係機関と情報を共有し
各々の知見を活かした
連携体制の構築

この3本の柱により、
「ト一横」における青少年・若者の犯罪被害等の防止を図っていく

相談窓口「きみまも@歌舞伎町」の取組 (令和6年度)

令和6年度 きみまも@歌舞伎町 について

- いわゆる「ト一横」などの歌舞伎町周辺では、各地から集まった青少年・若者が悪意のある大人によって犯罪・トラブルに巻き込まれる状況や、悪質ホストによる金銭被害、オーバードーズなどの問題が発生
- そうした現状に対し、東京都は、悩みを抱える青少年・若者が気軽に相談しやすい常設の窓口を設け、様々な悩みを聞く環境を整えるとともに、適切な支援につなげ、犯罪被害等の防止を図っていく

概 要

【名 称】きみまも@歌舞伎町

【開設日】令和6年5月31日(金)

【場 所】東京都健康プラザハイジア15階

【開設時間】午後3時～午後9時 週5回(日曜・祝日、月曜除く)

【相談方法】対面相談

【対 象】原則、都内在住・在勤・在学の青少年・若者。その家族等の相談も可

【相談体制】東京都が(社福)やまて福祉会に運営を委託
社会福祉士等の資格を有する相談員が対応。フリースペースなど気軽に利用しやすい環境を構築

【機 能】

ト一横・大久保公園周辺
における声かけ

フリースペース
(一息つける場所)の提供

社会福祉士等による
対面相談

課題解決に向けた
専門機関等へのつなぎ

青少年・若者の実態把握

犯罪被害等の防止(啓発)



令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況(まとめ)

① 利用の状況

- 想定以上の利用者数を受け、段階的に、相談員等の体制充実や登録制などを実施
- 5月末の開所から秋頃は利用者の多さなどもあって対応に苦慮したが、体制を強化した冬以降は利用者と相談員の会話が増え、相談から支援につながる事例が増加

② 利用者の属性

- 18歳未満の利用が1/3、10代が半数強を占めるが、20代前半の若者の利用も多い
- 東京都内の各地域に加え、他道府県からも多く来所

③ 窓口利用の傾向等

- 開所時間の前半における利用が多く、友人・知人からの紹介による来所が大半

④ 利用者の課題と支援

- 利用者の多くが、様々な背景から、市販薬濫用(OD)やリストカット、仕事や住居の不安定、金銭・性に関わるトラブルなどを抱えている状況
- 信頼関係を基に、傾聴・助言のほか、公的機関やNPOと連携して支援へのつなぎを実施
- 利用者の不安や孤独感などを緩和するため、季節の催しなどのイベントを開催

令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計: 令和6年5月31日から令和7年3月31日まで

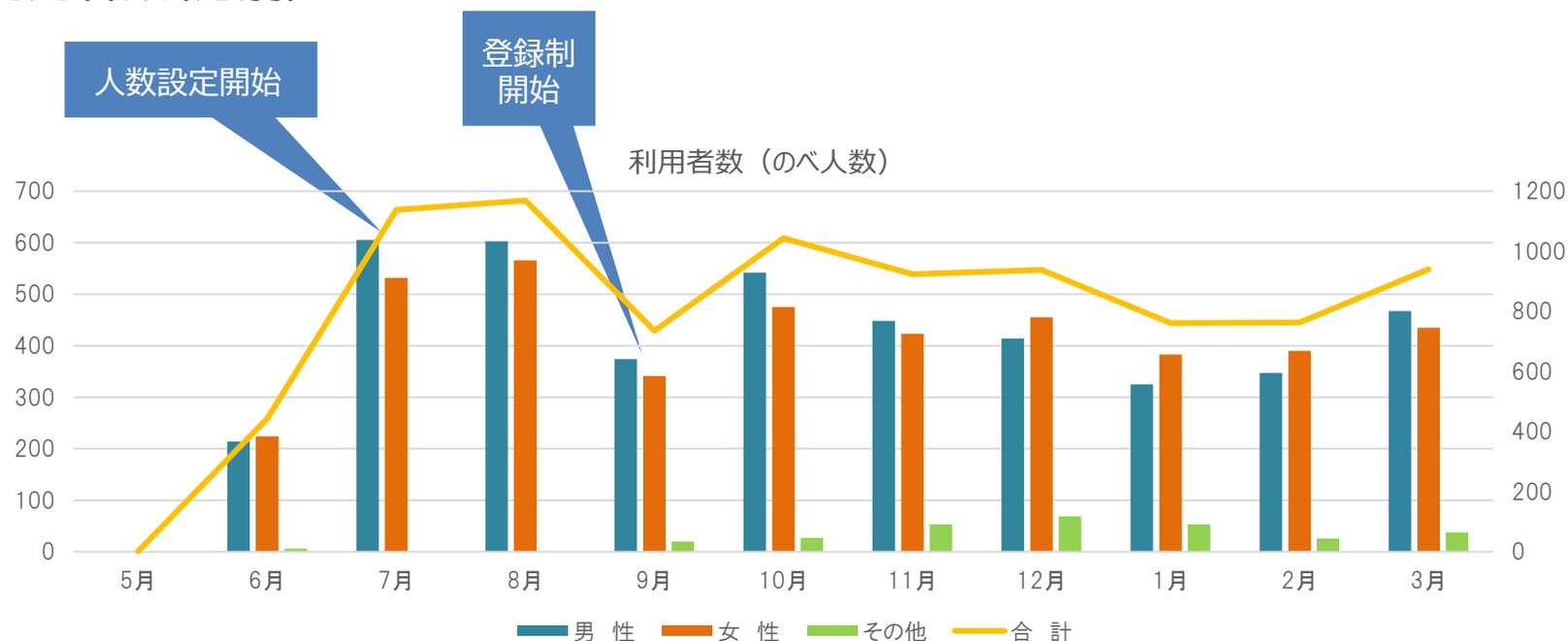
・利用者数(全体)

8,858人
(42人/1日)
※ のべ数

〈運営の改善〉

- ・ 想定以上の利用者数を受け、施設規模に基づく利用人数の設定や、相談員等の体制強化を実施
- ・ 9月から、より1人1人に寄り添うため、登録制を実施

・利用者数(月別)

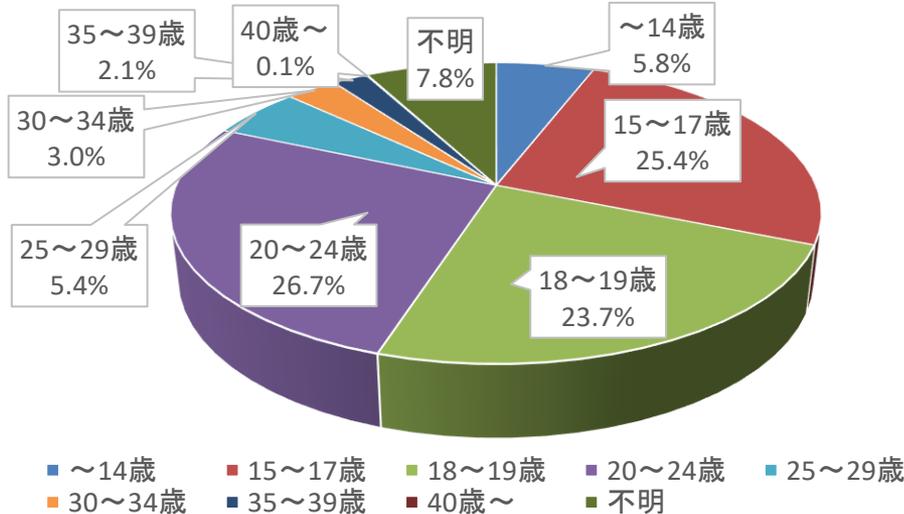


令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計: 令和6年5月31日から令和7年3月31日まで

年代別

※のべ数

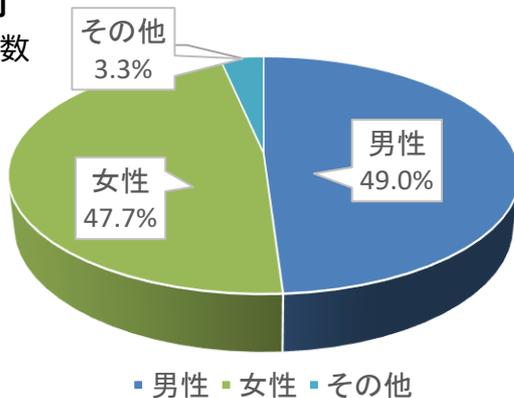


※統計の構成比の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。

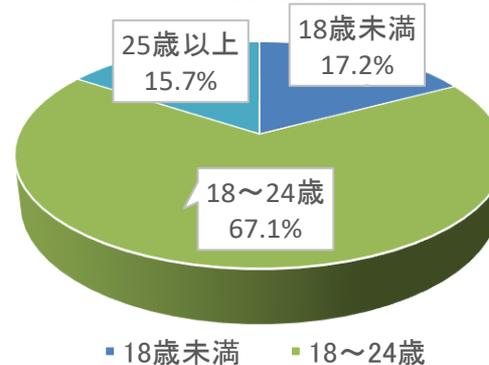
18歳未満が3割強
10代で約55%
20代前半も多い

性別

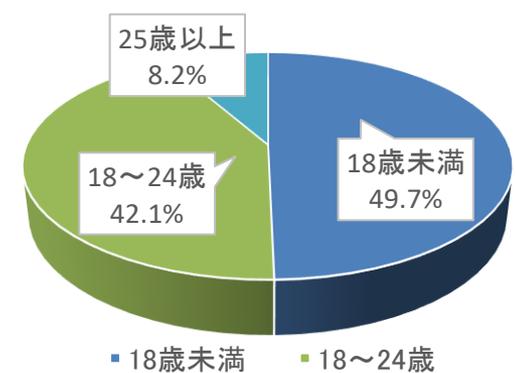
※のべ数



年代別(男性)



年代別(女性)



男女間でほぼ同率

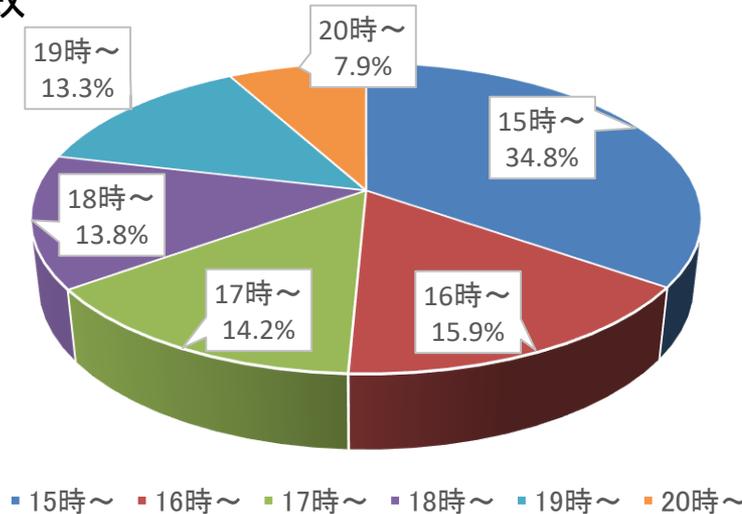
男性は18~24歳の割合が高く、
女性は18歳未満が約5割 ※不明を除く

令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計: 令和6年5月31日から令和7年3月31日まで

・ 時間帯別来所数

※のべ数

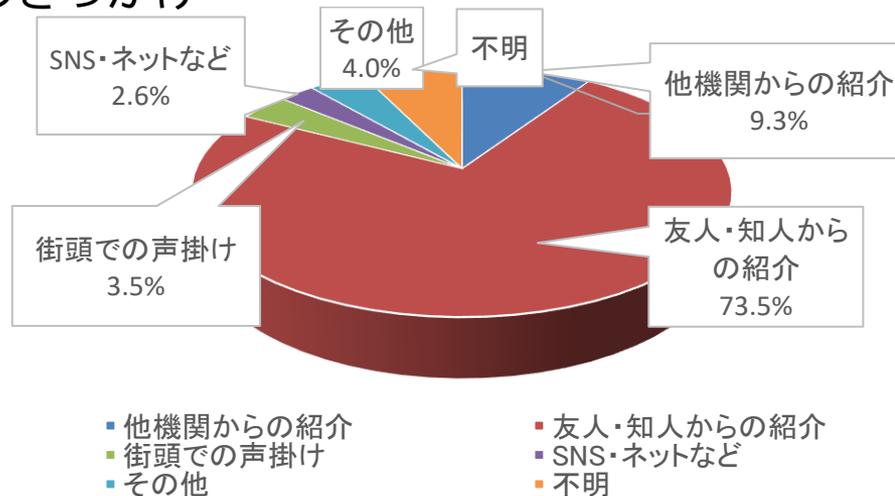


※統計の構成比の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。

午後3時台の来所が最も多く、
午後4時台、午後5時台と続く
開設時間前半の来所が多い

・ 利用のきっかけ

※のべ数



友人・知人からの紹介が大半を
占めている

民間支援団体とも連携し、街頭
等での声掛けも実施

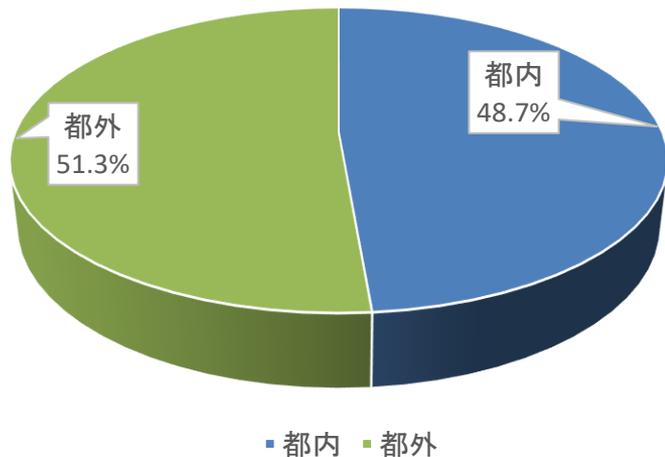
令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計: 令和6年5月31日から令和7年3月31日まで

※統計の構成比の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。

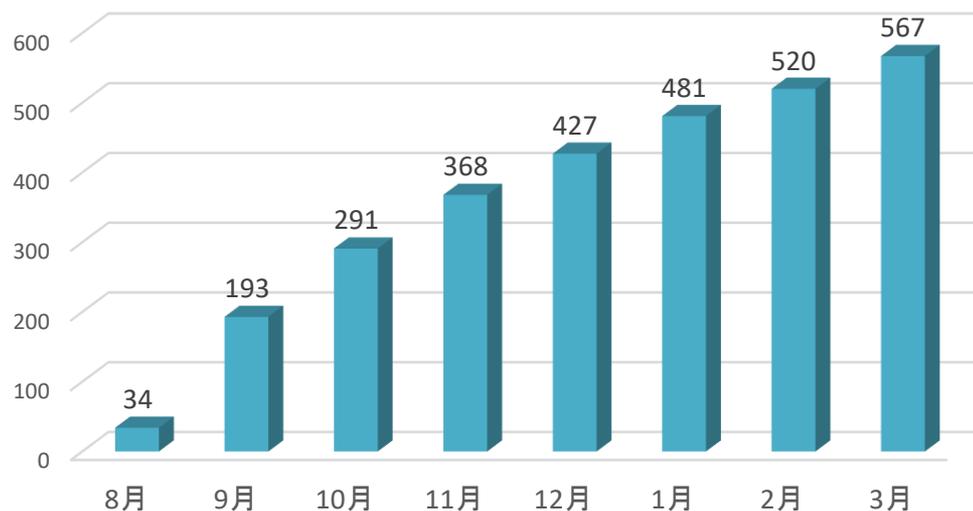
・居住地

※のべ数



都外/都内は、ほぼ同率

・登録状況の推移(累計)



9月の登録制開始以降、着実に増えていった

令和6年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計: 令和6年5月31日から令和7年3月31日まで

○ 外部の支援等へのつなぎ

区分	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活福祉	0	4	1	4	0	0	1	3	1	3	17
就労・雇用	2	0	0	3	3	0	0	2	1	1	12
保健・医療	0	1	0	4	3	3	3	3	2	3	22
民間支援団体	0	1	1	5	3	4	4	4	1	1	24
警察	0	2	4	1	2	7	2	4	6	1	29
救急要請	0	1	0	3	0	0	1	0	0	1	6
児童相談所	0	0	1	0	5	2	1	2	1	2	14
教育	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
合計	2	9	7	21	17	16	13	20	13	12	130

【主な事例】

- 生活保護 ~ 就労を含めた今後の生活について相談。生活保護の相談等に同行(10代男性)
- 居場所確保 ~ トラブルに巻き込まれ、帰る場所もないため、宿泊施設を案内(20代女性)
- 就労支援 ~ 高校中退、ハローワークへ同行(未成年男性)
- 未成年保護 ~ オーバードーズなど不安定な状態のため、児童相談所と連携(未成年女性)
- 希死念慮 ~ 「死にたい」旨を度々口にしたことから、警察に保護を依頼(20代女性)

きみまも@歌舞伎町 と関係機関・団体との連携

- 「きみまも」を利用する青少年・若者には、友人・家族とのトラブルや性被害、オーバードーズ、自傷、希死念慮、生活困窮など、多様かつ複合的な課題を抱えている者がいる
- こうした課題には、運営受託者(やまて福祉会)の専門性のみでは対応しきれないケースも多く、区市町村など公的機関に加え、各分野のノウハウを有する民間団体との連携が不可欠
 - ⇒ きみまも@歌舞伎町を中心に、NPO等との幅広い協力関係を構築

連携している分野

生活困窮・居住支援、居場所・シェルターの提供、若年女性支援、若者相談、自殺対策、薬物依存対策、保健医療、子ども支援、外国にルーツをもつ者への(多言語)支援 など

連携している機関・団体の例

- ・ 区役所・市役所の生活福祉部門
- ・ 東京都若年被害女性等支援事業の補助事業者など、女性や性被害者を支援する団体
- ・ 自殺対策を推進し、自殺予防・防止のための啓発活動を行っているNPO
- ・ ハームリダクションの観点から、薬物依存者に対する支援を行っている団体
- ・ 未成年利用者の居住自治体の児童相談所
- ・ 多言語相談・通訳など、在住外国人等との多文化共生を推進する団体 など

きみまも@歌舞伎町 と関係機関・団体との連携

令和6年度の主な連携事例

【関係団体意見交換会】

- ・ きみまもの運営及び青少年・若者の状況などについて意見交換するために開催
- ・ 令和6年度は3回の会議に各15団体が参加、活発な発言が交わされた

【利用者向けイベントの共同実施】

- きみまもぶっちゃけトークの日
NPO法人ライフリンクと連携、トークとワークを通じて生きづらさの緩和を図る
- きみまもクリスマス会
(一社)ゾエ・ジャパンと連携、リースやレジンアートのワークショップ、多国籍スタッフとの交流など
- お勉強界限inきみまも
大学生利用者が企画、友人と楽しく勉強する経験を通じ自己肯定感等を向上



【職員向け研修】

- ・ 薬物依存や希死念慮等について相談員の負担を軽減するため、NPOによる研修を企画
- ・ 連携団体のスタッフにきみまも内の様子を視察してもらい、助言等を求める取組も実施

【個別ケース対応など】

- ・ 閉所時間後に自宅に帰れない利用者について、若年女性向けシェルターで受け入れてもらった
- ・ 連携団体スタッフが、歌舞伎町で不安定な状況にあった若者などをきみまもに案内
- ・ 日本語の不得意な外国ルーツの利用者に対し、遠隔通訳を活用して聞き取りを実施
- ・ 支援事業のリーフレットなどをきみまも内に設置し、必要に応じて個別に情報提供も



令和6年度 きみまも@歌舞伎町 におけるイベント

- 「ト一横」に集まる青少年・若者の中には、友人・家族とのトラブルや性被害、生活困窮などの課題(生きづらさ)を抱えており、心身が不安定な状況にある者がいる
- 「きみまも」において通常の相談に加えて参加型のプログラムを実施し、様々な体験の機会を提供することで、利用者の活動のきっかけづくりや自己肯定感の向上等を図っていく

例1 「きみまも ぶっちゃけトークの日」

- NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンクとの共同企画
- 自由に話せる「みんなでトーク」とものづくり(オリジナルスタンプづくり、習字、ビーズ細工など)を通じ、生きづらさの解消を図る
- 11月、12月、3月の3回で計26名が参加
- 参加者はトークやワークによく集中し、「他の人も苦しいのがわかってよかった」「考えが整理できた」など、多くが肯定的な感想を残した
- 運営側にとっても、通常の相談とは別の形で、利用者の課題をすくいあげる手立てとなった



令和6年度 きみまも@歌舞伎町 におけるイベント

例2 季節ごとのイベント

- 行事等を通じて、利用者との距離を縮めるきっかけとするとともに、「ト一横」では感じ取ることが難しい季節感を楽しむ様々な体験を提供
- 温かさと手作り感を感じられる内容とし、ものづくり・ゲームのほか、手書きカードなど利用者が思いを表現できる仕組みも用意
- ノウハウを持ったNPO等と協働し、利用者が様々な大人と話すことができる機会にも
- 準備・実施における参加を通じて、利用者の自己肯定感や自信の向上も図っていく

【七夕】【ハロウィン】



【クリスマス】



※（一社）ゾエ・ジャパンと共同で開催

令和6年度 きみまも@歌舞伎町 におけるイベント

例2 季節ごとのイベント

【年末】【お正月】



【節分】【桃の節句】



- 多くの利用者が参加し、ゲームやクイズで童心に帰って楽しむ姿、様々な思いを真剣にカードに書き込む姿、外国ルーツのボランティアに英語で話しかける意外な一面などが見られた
- 窓口の和やかな雰囲気づくりにつながり、利用者の積極性を引き出す効果もあった

例3 「お勉強界限 in きみまも」

- 大学生を中心とする有志の提案を受け、利用者の自主学習イベントを開催(1月、3月)
- 学習・交流の機会を提供し、利用者の学力や自己肯定感などの向上につなげていく

相談窓口「きみまも@歌舞伎町」の取組 (令和7年度)

きみまも@歌舞伎町は東京都の相談窓口です。



「トー横」と呼ばれる地域に居場所を求める若い世代の悩みに対して、専門の相談員がサポートします。

安全な相談場所：歌舞伎町周辺の若者たちに、安全で、安心して相談できる場所を提供します。

相談サポート：軽食や無料Wi-Fi、充電器などがあり、ひと休みしながら信頼できる人と話せます。

セーフティネット：若者の悩みや問題について、行政機関や支援団体とともに解決を図ります。

対象者：未成年から39歳までの青少年・若者（家族の相談も可能）

利用時間：火～土曜日の15時～21時（年末年始、祝日を除く）

スタッフ：社会福祉士や心理士、看護師などの相談員が対応

場所：新宿区歌舞伎町2-44-1 東京都健康プラザハイジア17階



公式HP



～若者たちが抱えている課題の例～

- ・家庭や学校のトラブルにより、居場所を見つけることができない。
- ・仕事や住まいが定まらず、安定した暮らしができていない。
- ・性被害や金銭トラブル、暴力など、犯罪等のリスクにさらされている。
- ・生きづらさを抱え、オーバードーズ（市販薬の乱用）やリストカットをしている。



若者たちの、犯罪被害の防止や悩みの解決を目指しています。

皆さまのご協力をお願いします。

一人ひとりと生きるまち。



きみまも@歌舞伎町のフロア移転&拡充

令和6年度の運営状況を踏まえ、「安全」と「支援」の両面から拡充

■ より多くの利用者を受け入れるために

利用スペースと定員を約1.5倍に拡大

■ より安全な相談窓口とするために

- ・ 入口付近に受付・待合を設け、利用者スペースと外を明確に分離
- ・ 青少年が静かに過ごせるエリアを設定し、切り分け
- ・ 体調不良者も多いことから、救護室を設置

■ より充実した支援を行うために

- ・ 登録前相談や個別相談の増加に対応するため、個室を2個→3個に増室
- ・ フロアの利用者にアクセスしやすいよう、横長のカウンターを設置
- ・ 落ち着いた雰囲気での相談に結びつくよう、床色や照明を変更

■ 運営体制の強化

相談員・警備員の増員 看護師等も配置



落ち着いた雰囲気での照明・什器



新たに救護室を設置



利用ルールをイラストとやさしい言葉で伝える



交流のきっかけにもなる卓球台



カウンターの形状工夫

令和7年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

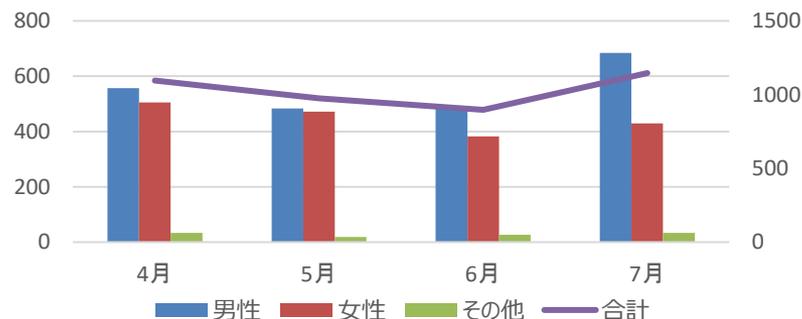
集計：令和7年4月1日から
令和7年7月31日まで

※ 数値はのべ数
統計の構成比の数値は、四捨五入しているため、
内訳の合計が100%にならないことがある。

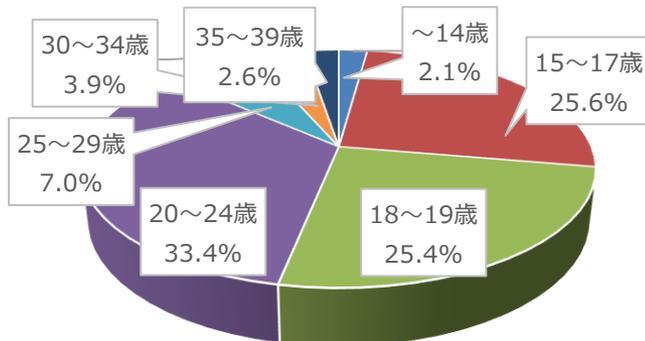
・利用者数(全体)

4,113人
(49人/1日)

・利用者数(月別)

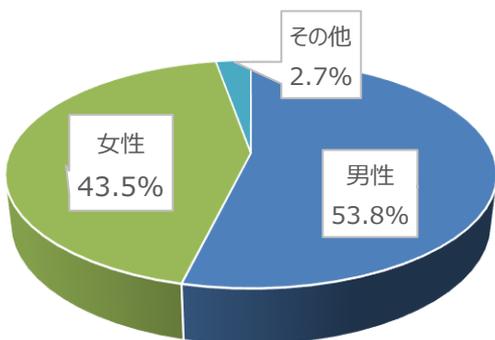


・年代別



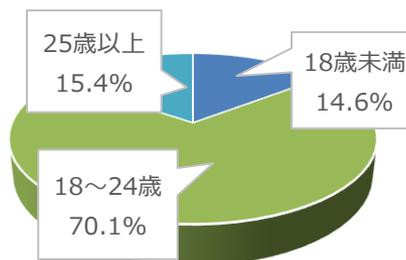
18歳未満が約3割、10代で5割強
20代前半までが大多数

・性別

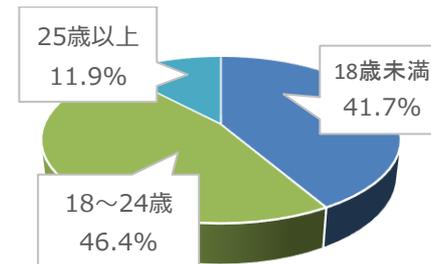


前年度に比べ、男性の割合が高い

年代別(男性)



年代別(女性)



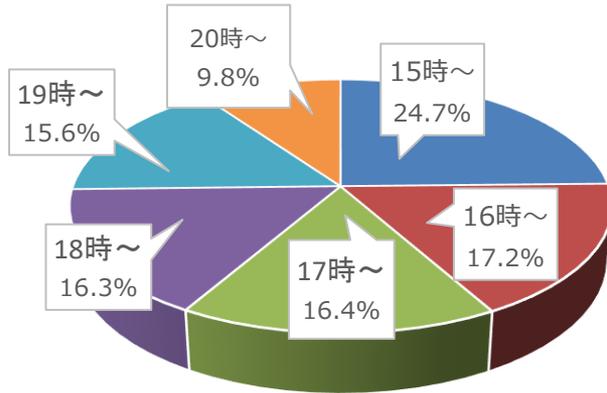
男性は18～24歳の割合が非常に高く、
女性は18歳未満が約4割 ※不明を除く

令和7年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計：令和7年4月1日から
令和7年7月31日まで

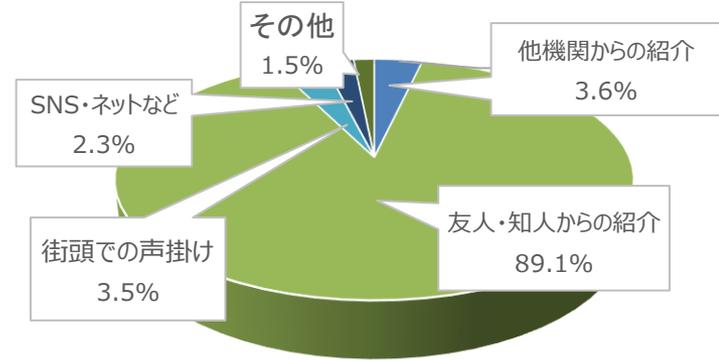
※ 数値はのべ数
統計の構成比の数値は、四捨五入しているため、
内訳の合計が100%にならないことがある。

・ 時間帯別来所数



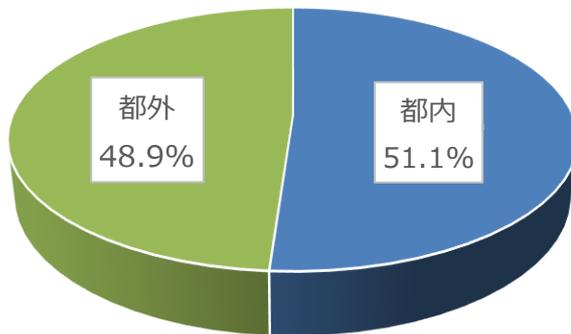
午後3時台の来所が最も多いが、前年度よりも
午後6時以降の来所の割合が増えている

・ 利用のきっかけ



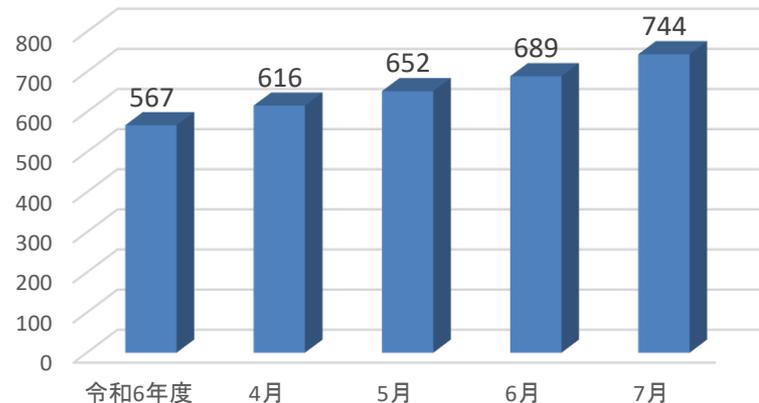
友人・知人からの紹介が大半を占めている状況

・ 居住地



都外/都内は、ほぼ同率

・ 登録状況の推移(累計)



今年度も、新規登録は確実に増加

令和7年度 きみまも@歌舞伎町 の運営状況

集計：令和7年4月1日から
令和7年7月31日まで

○ 外部の支援等へのつながり

区分	4月	5月	6月	7月	合計
生活福祉	9	4	5	5	23
就労・雇用	0	0	3	1	4
保健・医療	3	9	5	5	22
民間支援団体	3	6	3	1	13
警察	3	4	3	3	13
救急要請	1	1	3	2	7
児童相談所	1	0	1	2	4
教育	0	0	0	0	0
その他	2	2	3	2	9
合計	22	26	26	21	95

【つながり先の例】

- 生活福祉 … 各自治体の福祉事務所、更生施設、社会福祉協議会 など
 - 就労・雇用 … ハローワーク、自治体の就労支援窓口 など
 - 保健・医療 … 無料低額診療事業実施の医療機関、心療内科・精神科 など
 - 民間支援団体 … 若年女性を支援する団体、性被害者を支援する団体 など
- そのほか、未成年利用者の居住自治体における児童相談所・子ども家庭支援センター、警察署など

令和7年4月～7月における対応事例(抽出)

衣食住を失う一方、生活保護に忌避感（男性 20代前半）

- 数年前に家を出て、歌舞伎町に1年以上滞在
- 住居なく食事もできず風呂にも入れず、所持金はわずか
- 過去の家族とのやりとりが影響し、本人は生活保護に気が進まない様子であった

- 生活保護が権利であることなど説明し、職員が同行し、自治体の生活福祉課につないだ
- 宿泊所への入居や精神科の受診など、職員の同行を交えつつ、継続的に支援

家族関係の問題から、警察への相談と隔離を希望（女性 20代前半）

- 新規登録の聞き取り時に、自らの生きづらさと母親の過干渉などを相談。通院中母親が幼少期の頃から常に行動を共にしている状況
- 希死念慮も口にし、警察への相談、家族からの隔離を希望

- 職員が同行し、警察署の相談につないだ
- その後、当面の居場所等を確保するために、女性支援団体のシェルターに引き継いだ

令和7年4月～7月における対応事例(抽出)

オーバードーズの影響により救急搬送（女性 10代後半）

- たびたび来所している利用者。リストカット、オーバードーズを繰り返す
- 受付で震え止まらず救護室へ。オーバードーズの影響が疑われ、発熱、過呼吸気味に

➤ 119番通報し、救急搬送。居住地の児童相談所と連携しながら見守りを継続

※ きみまもには看護師が配置されており、体調不良については緊急度などに応じて「救護室での処置」「病院の診察へ同行」「救急搬送」等の対応をとっている

複合的な課題に対し、複数機関連携で対応（男性 20代前半）

- 昨年夏からの利用者
- オーバードーズによる入院もあって疲弊し、職を失って精神的に追い込まれた
- 所持金乏しく、宿泊場所もなく、借金があり、不安と恐怖を訴えた

- 自治体の生活福祉課・更生施設・精神科に同行支援
- 借金については、法テラス弁護士を通じ、債務整理へ向けて調整
- その後、きみまも・自治体ケースワーカー・法テラス弁護士で連携しつつ継続支援

令和7年度 きみまも@歌舞伎町 のトピック

日本司法支援センター 法テラス との連携(4月～)

- きみまもを利用する青少年・若者の多くは、家族関係や犯罪被害、生活困窮、金銭問題などの課題を抱えている
- そうした状況に対し、東京都と法テラスが連携し、司法サービスにアクセスしづらい若い世代を支援につなげることで、課題解決を図っていく
- 法テラスがきみまもに弁護士を派遣し、利用者に法制度等に関する助言等を行うとともに、きみまも相談員への研修や助言によって窓口の支援力を高めていく
- また、都と法テラスは、きみまも運営に関する会議への出席など、情報共有を進めていく



関係団体意見交換会の開催(7月)

- きみまもと連携しているNPOなど16団体が集まり、今年度最初の意見交換会を開催した
- 支援団体のコンプライアンスや、増加する若者の自死などの課題に関する意見交換のほか、きみまも事業の拡大を評価し今後期待する声も寄せられた

令和7年度 きみまも@歌舞伎町 のトピック

季節のイベント

- 季節の催しとして、5月に「端午の節句」、7月に「七夕」を実施
- 季節感を味わえる飾り付けの中で、相談員や仲間とともにゲーム等を楽しんだ
- カードには、様々な要望のほか、きみまもへの感謝、自身や周りの幸せを願う言葉などが書かれていた



NPOと連携したプログラム

- 7月、ゾエ・ジャパンとともに「ハワイアン」イベントを実施
- クラフトづくりや、作成したハワイアン・レイを首にかけてのフラダンス体験、ウクレレ体験教室など
- 利用者は、ハワイからやってきたボランティアとともに、異文化に触れる体験を楽しんだ



こうした催しは、利用者の前向きな行動のきっかけとなり、言語化・表現・協調につながる意義もある。開催後に個別相談に移行するケースもあるなど、支援への信頼を高める効果もあった

相談窓口以外の取組

相談窓口以外の取組の状況

SNSを活用したターゲティング広告

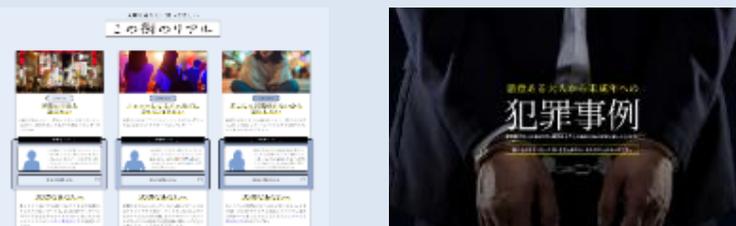
- ・ 青少年・若者に訴求力のあるタレントを起用し、華やかにみえる歌舞伎町の裏側に潜在する危険をわかりやすく伝えるショート動画を制作
- ・ 夏休み期間中、SNSを活用したターゲティング広告を実施し、啓発ホームページへの遷移を促し、犯罪被害等を未然防止(R7.8～)
- ・ 現在、未成年を犯罪行為等に巻き込もうとする悪意ある大人に向けた警告動画を制作中
※ 冬休み期間にターゲティング警告を実施予定



青少年・若者に向けた啓発動画



広告をしたSNS



啓発ホームページで犯罪事例を掲載し注意喚起

街頭ビジョンによる啓発

- ・ 学校や家庭に居場所がなく、歌舞伎町を訪れた青少年・若者に向けて きみまも@歌舞伎町 を周知する動画を制作
- ・ 夏休み期間に歌舞伎町の街頭ビジョンで放映し、悩みや不安を抱える青少年・若者へアウトリーチ(R7.7～R7.8)
- ・ SNSターゲティング広告用動画を、歌舞伎町周辺の街頭ビジョンでも放映し、視覚・聴覚の両面から青少年・若者と悪意のある大人への注意喚起・警告を発信予定



きみまも@歌舞伎町 PR動画

歌舞伎町タワー
ビジョンで放映



相談窓口以外の取組の状況

情報連絡会の開催

「ト一横」をはじめ歌舞伎町界限における青少年・若者の犯罪被害等の防止に関する情報について、関係機関で共有するための情報連絡会を開催

第1回・・・令和5年10月30日 参加数：8団体・部署

第2回・・・令和6年2月9日 参加数：11団体・部署

第3回・・・令和6年8月29日 参加数：11団体・部署

第4回・・・令和7年2月5日 参加数：11団体・部署



歌舞伎町周辺のパトロールへの参加

「ト一横」問題や大久保公園周辺の売春対策にかかる防犯活動の一環として、地元自治会及び新宿区、警視庁等と連携し、歌舞伎町周辺におけるパトロール活動を定期的実施

(R5.10～月8回程度)



今後の取組の方向性について ～きみまも@歌舞伎町を中心に～

東京都は、今後とも、「安全」と「支援」の両面から、歌舞伎町(ト一横)に居場所を求める青少年・若者の課題に取り組んでいく

① 犯罪・トラブル被害の防止

若い世代が歌舞伎町で犯罪や搾取、トラブルなどに巻き込まれる状況が続いていることから、「きみまも」をいっそう安心できる拠り所とするとともに、必要な啓発等を実施する

② 実態に応じた支援の充実

「きみまも」における相談等を通じ、青少年・若者が歌舞伎町に集まる背景には、心や体の悩み、家族の不和や虐待、生活困窮など、様々な課題があることがわかったそれらについて実態把握や分析を進めるとともに、下記のとおり支援を充実させていく

- ・ スタッフの資質向上や多分野のNPO・専門家との連携など、相談対応力の向上
- ・ 若い世代の課題に対応した支援策の確保、つなぎ先の拡大・充実
- ・ 利用者が受け入れられ、心身の元気を取り戻し、人とのつながりを増やしていける場づくり

③ 連携の拡大と課題の共有、発信

支援の充実のため、様々な地域・分野の行政・支援団体・学校等との連携を拡大するとともに、「ト一横の問題はト一横だけでは解決しない」との認識の下、「きみまも」を通じてわかった実態やノウハウについて情報を共有・発信していく